東京都・私立
吉祥女子中学・高校

国公立大進学実績の向上

6年計画の進路指導と授業改善の両輪で生徒の学ぶ意欲を育てる

◎帝国書院の創設者である守屋荒美雄が創立した帝国第一高等女学校を前身とする私立の中高一貫校。「自主自律」をモットーとし、社会に貢献する自立した女性の育成を目指す。20年以上前から6年間を見通したキャリア教育を推進。芸術系クラスがあり、美術・音楽系の大学への進学者も多い。

設立
1938(昭和13)年

形態
全日制／普通科／女子

生徒数
1学年約250人

10年度入試合格実績(現浪計)
国公立大は、東北大、筑波大、千葉大、お茶の水女子大、東京大、一橋大、横浜国立大、京都大、大阪大などに62人が合格。私立大は、青山学院大、慶應義塾大、上智大、立教大、明治大、早稲田大など延べ1010人が合格。

住所
〒180-0002
東京都武蔵野市吉祥寺東町4-12-20

電話
0422-22-8117

Web Site
http://www.schoolguide.ne.jp/kichijo/

変革のステップ

背景
◎生徒の通学圏内で高校間競争が激化。学校の特色を出すため、国公立大進学者の増加を目標に据える
STEP 1

実践
◎面談やガイダンスなどを通して国公立大への意識を涵養。生徒による授業評価や公開授業により授業力を強化
STEP 2

成果
◎国公立大合格者が過去6年で40人台から60人台に増加。中学入学時点の生徒の学力も向上
STEP 3

周辺の大学付属校の共学化で生き残り競争が激化

吉祥女子中学・高校は、東京都西部に位置する私立の中高一貫の進学校だ。例年、早慶上智大に100人前後の合格者を出し、ここ数年は国公立大の合格者を伸ばしてきた。2004年度までは40人程度だった国公立大合格者は、10年度入試では62人と過去最高を記録。07年度入試では東京大に9人が合格し、話題となった。

同校が国公立大合格者の増加を目標に打ち出したのは、6年前のこと。進路指導室長の鈴木正弘先生は、その背景を次のように語る。

「本校の最寄り駅のあるJR中央線沿線は、都立の進学重点校や中高一貫校、難関私立大の付属高校が数多くあります。更に少子化の影響を受け、ここ数年で私立大の付属高校が次々と共学化しました。そうした状況で、いくら難関私立大の合格者を増やしても、他校との差別化は図れません。本校のある三多摩地区は昔から国公立大志向が強い土地柄です。生徒・保護者のニーズに応え、本校の独自性を出す必要があると考えました」

私立高校での学力向上施策というと、特進クラスの設置や予備校との連携などにより、成績上位層の強化を図るケースがよく見られるが、同校はそうした対策は取らなかった。その根底には、「生徒全員を社会に貢献する自立した女

性に育てたい」という教師の思いがあった。

「進学に特化したクラスを設ければ、短期的に進学実績は向上するかもしれません。しかし、長期的に考えると、そうした施策は致命傷になりかねません。上位クラスに入れた生徒はレベルの高い指導を受けられても、他の生徒は劣等感を持ったり、学校に対して不信感を抱いたりするかもしれません。私立校で重要なことは、卒業生がリピーターとなり、自分の子どもを連れて戻ってくることです。『自分の子どもに受けさせたい』と思う教育を行うことが、結果的に生き残りにつながるのではないでしょうか」（鈴木先生）

吉祥女子中学・高校
鈴木正弘 Suzuki Masahiro
教職歴・赴任歴共に30年。進路指導室長。「女性の力が世界を変え、世界を救う」

吉祥女子中学・高校
赤沼一弘 Akanuma Kazuhiro
教職歴・赴任歴共に16年。3学年主任。「社会に貢献する人材を育てたい」

吉祥女子中学・高校
西塚純一郎 Nishizuka Junichiro
教職歴・赴任歴共に8年。3学年担任。「自ら考え、自ら行動できる生徒を育てたい」

吉祥女子中学・高校
佐川侑希恵 Sagawa Yukie
教職歴4年。同校に赴任して3年目。3学年担任。「周囲を支えられる力を身に付け、周囲の支えに感謝できる人を育てたい」

20年以上も前から、将来の職業や生き方を見据えた6年一貫のキャリア教育を進路指導の中心に据えているのも、そのためだ（図1）。外部からの強制によってではなく、内発的な動機付けを重視しながら、生徒が前向きに学ぶ気持ちを育てることが、進路観を養い、学力向上につながると考えている。

「進路ガイダンス」により国公立大に目を向けさせる

国公立大合格者の増加を目標に据えた時も、まず重視したのは生徒の意欲の向上だ。首都圏では、国公立大は難関大が多くハードルが高い上、早慶上智大やMARCH（＊）など、主に3教科で受験できる私立大がひしめいている。相当の学力を持った生徒でも、国公立大を目標として高校3年生まで5（6）教科7科目の学習を持続させるのは容易ではないからだ。

生徒の意欲向上に欠かせない施策の一つは、「進路ガイダンス」だ。キャリア教育の中核的な取り組みであり、中学1～3年は各1回、高1は3回、高2と高3は各5回、6年間で計16回実施する。

中1～中3では、経済情勢や少子化問題、高齢化社会、女性の労働環境など日本の現状のデータを提供しながら、生徒自身の将来像を描かせる。中3の11月のガイダンスでは、初めて大学入試情報を提供する。ほぼ全員が参加するカナダ語学体験ツアーから帰国し、将来について考える意欲が高まり始める時期だからだ。そして、高1からは具体的な大学情報を発信する。私立大との学費や施設の違い、文部科学省の指

図1　6年間の進路指導プログラム（2009年度版抜粋）

中1　目標：社会と自分のつながりを考える…「環境」を手がかりに
- ◎入学後の富士寮合宿（1泊2日）
- ◎進路・生き方を考えるプログラム…社会人へのインタビューとレポート作成、環境レポート作成、環境関係の講演会
- ◎進路ガイダンス1回　◎外部模試2回

中2　目標：社会に貢献する生き方を考える…「福祉」を手がかりに
- ◎進路・生き方を考えるプログラム…ボランティアレポート作成、福祉関係の講演会
- ◎進路ガイダンス1回　◎外部模試3回

中3　目標：ライフプランと職業観の育成・国際交流を考える
- ◎進路・生き方を考えるプログラム…職業レポート作成、クラスディスカッション、「私のライフプラン」作成、国際交流関係の講演会
- ◎カナダ語学体験ツアー（8泊9日）研修レポートの作成
- ◎進路ガイダンス1回　◎外部模試3回

高1　目標：女性の生き方・職業観の育成・学部学科の選定
- ◎進路月間（7～11月）…学部学科レポート作成、文理芸選択説明会、教員によるパネルディスカッション、クラスディスカッション、卒業生講演会
- ◎進路ガイダンス3回　◎外部模試3回

高2　目標：学部学科の選定・第1志望校の設定
- ◎進路月間（7～11月）…大学レポート作成、選択科目説明会、卒業生を囲む会　◎進路ガイダンス3回　◎難関国公立志望者ガイダンス1回
- ◎医学部志望者ガイダンス1回　◎外部模試3回

高3　目標：大学受験指導
- ◎進路ガイダンス5回　◎文化人による講演会　◎外部模試7回

◎この他に、進路情報誌『吉祥進学』を年6回、生徒全員に配布
＊学校資料を基に編集部で作成

＊明治大（M）、青山学院大（A）、立教大（R）、中央大（C）、法政大（H）を示す

定事業の選定数など、研究・環境面での国公立大の魅力を伝えながら、生徒の意欲を高めていく。

高2の秋には難関国公立大志望者ガイダンス（図2）と医学部ガイダンスを実施し、成績上位層の意識付けにも努める。センター試験のボーダーラインなどの基礎情報を提供したり、国公立大における女子学生比率の低さを示し、日本の男女共同参画への問題提起をしたりして、多方面から生徒の意欲を刺激する。

担任からの日々の働き掛けが生徒の意欲を高める

隔月発刊の進路情報誌『吉祥進学』も、生徒の意欲を喚起する重要なツールだ。40ページ前後の冊子に、全国的な大学入試動向や主要大学の情報、センター試験の結果、同校の進学状況、卒業生のメッセージや教科担任による学習のアドバイスなど、時期に応じて生徒の意欲を喚起するさまざまな情報が網羅されている。

そして、生徒が国公立大に目を向けられるよう、担任は意識的に指導する。高3国文クラス担任の佐川侑希恵（ゆきえ）先生は、次のように話す。

「本校では、高2から進路に応じて国公立文系、私立文系、理系（国公立・私立）、芸術系に分かれます。選択時に文系で国公立か私立かを絞り切れない生徒には、選択の幅を広げておくため、国公立大を勧めます。5（6）教科7科目の壁にくじけそうになる生徒もいますが、日々の面談や授業を通して、最後まで目標に向けて頑張るよう励ましています」

現高校3年生は、国文クラス60人のうち8割が、4月時点で国公立大志望を貫いている。

授業力の向上は学校の「生命線」

進路意識の醸成以上に、同校が努力を重ねているのが、教師の授業力の向上である。

「どんなに良いカリキュラムや進路指導プログラムがあっても、普段の授業が生徒の力を高めるものになっていなければ意味がありません。授業は本校の『生命線』です」（鈴木先生）

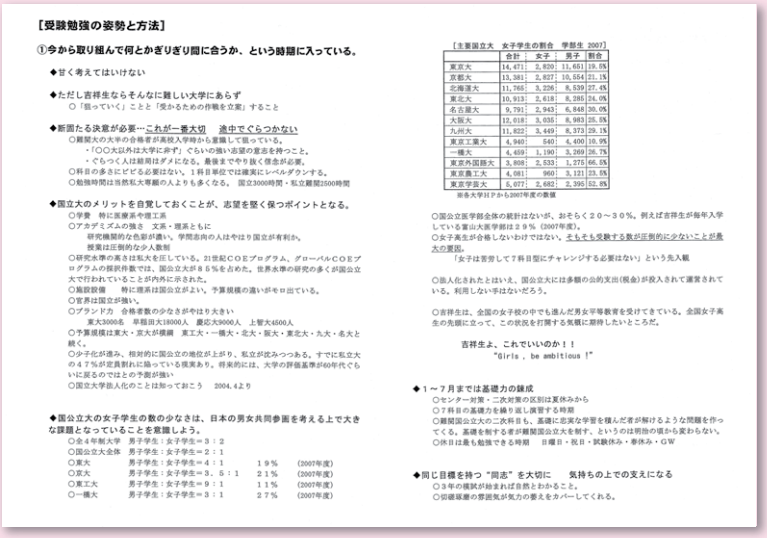
生徒による授業評価は、授業力向上の施策として20年以上続く取り組みだ。1学期末と3学期末に、マークシート方式で全教師の授業を生徒に評価させる。評価が低い教師は校長の指導を受けると共に、改善点をより明確にするために2学期に自由記述式のアンケートを取る。

自ら授業アンケートを取る教師もいる。高3主任で化学担当の赤沼一弘先生は、実験レポートに感想欄を設け、生徒に意見を聞いている。

「本校の生徒の良いところは、分からなければ分からないときちんと言ってくれるところです。マークシートでは定量的にしか生徒が感じていることを把握できません。具体的な感想を聞くことによって、『授業のこの説明が分かりづらかった』など改善すべき点がより明確になります」

高3担任で数学担当の西塚純一郎先生も、授

図2　「難関国公立大志望者ガイダンス」での配布資料



【受験勉強の姿勢と方法】

①今から取り組んで何とかぎりぎり間に合うか、という時期に入っている。

◆甘く考えてはいけない

◆ただし吉祥生ならそんなに難しい大学にあらず
　○「狙っていく」ことと「受かるための作戦を立案」すること

◆新固たる決意が必要…これが一番大切　迷中でぐらつかない
　○難関大の大半の合格者が高校入学時から意識して狙っている。
　　・「○○大以外は大学に非ず」ぐらいの強い志望の意志を持つこと。
　　・ぐらつく人は結局はダメになる。最後までやり抜く信念が必要。
　○科目の絞りこびビビる必要はない。1科目単位では偏差値にレーベルダウンする。
　○勉強時間は当然私大専願の人よりも多くなる。　国立3000時間・私立難関1500時間

◆国立大のメリットを自覚しておくことが、志望を堅く保つポイントとなる。
　○学費　特に医療系や理工系
　○アカデミズムの強さ　文系・理系ともに
　　研究機関的な色彩が濃い。学問志向の人は中は引国立が有利か。
　　授業は圧倒的な少人数制
　○研究水準の高さは私大を圧している。21世紀COEプログラム、グローバルCOEプログラムの採択件数では、国公立大が85%を占めた。世界水準の研究の多くが国公立大で行われていることが内外に示された。
　○施設設備　特に理系は国公立が よい。予算規模の違いがモロ出ている。
　○官界は国立が強い。
　○ブランド力　合格者数の少なさが中はり大きい
　　東大3000名　早稲田大18000人　慶応大9000人　上智大4500人
　○予算規模は東大・京大が横綱　東工大・一橋大・北大・阪大・東北大・九大・名大と続く。
　○少子化が進み、相対的に国公立の地位が上がり。私立が沈みつつある。すでに私立大の47%が定員割れに陥っている現実あり。将来的には、大学の評価基準が60年代ぐらいに戻るのではとの予測が強い
　○国立大学法人化のことは知っておこう　2004.4.2より

◆国公立大の女子学生の数の少なさは、日本の男女共同参画を考える上で大きな課題となっていることを意識しよう。
　○全4年制大学　男子学生：女子学生＝3：2
　○国公立大全体　男子学生：女子学生＝2：1
　○東大　男子学生：女子学生＝4：1　19%　（2007年度）
　○京大　男子学生：女子学生＝3．5：1　21%　（2007年度）
　○東工大　男子学生：女子学生＝9：1　11%　（2007年度）
　○一橋大　男子学生：女子学生＝3：1　27%　（2007年度）

【主要国立大　女子学生の割合　学部生 2007】

	合計	女子	男子	割合
東京大	14,471	2,820	11,651	19.5%
京都大	13,381	2,827	10,554	21.1%
北海道大	11,765	3,226	8,539	27.4%
東北大	10,913	2,618	8,285	24.0%
名古屋大	9,791	2,943	6,848	30.0%
大阪大	12,018	3,035	8,983	25.3%
九州大	11,822	3,449	8,373	29.1%
東京工業大	4,940	540	4,400	10.9%
一橋大	4,459	1,190	3,269	26.7%
東京外国語大	3,808	2,533	1,275	66.5%
東京農工大	4,081	960	3,121	23.5%
東京学芸大	5,077	2,682	2,395	52.8%

※各大学HPから2007年度の数値

○国公立医学部全体の統計はないが、おそらく20～30%。例えば吉祥生が毎年入学している富山大医学部は29%（2007年度）。
○女子高生が合格しないわけではない。そもそも受験する数が圧倒的に少ないことが最大の要因。
　「女子は苦労して7科目型にチャレンジする必要はない」という先入観

○法人化されたとはいえ、国公立大には赤字の出的支出（税金）が投入されて運営されている。利用しない手はないだろう。

○吉祥生は、全国の女子校の中でも進んだ男女平等教育を受けてきている。全国女子高生の先頭に立って、この状況を打開する気概に期待したいところだ。

　吉祥生よ、これでいいのか！！
　　"Girls，be ambitious !"

◆1～7月までは基礎力の錬成
　○センター対策・二次対策の区別は夏休みから
　○7科目の基礎力を繰り返し演習する時期
　○難関国公立大の二次科目も、基礎に忠実な学習を積んだ者が解けるような問題を作ってくる。基礎を制する者が難関国公立大を制す、というのは明治の頃から変わらない。
　○休日は進も勉強できる時期　日曜日・祝日・試験休み・春休み・GW

◆同じ目標を持つ"同志"を大切に　気持ちの上での支えになる
　○3年の模試が始まれば自然とわかること。
　○仮説塚廊の雰囲気が気力の要えをカバーしてくれる。

受験へのスイッチを入れる高2の11月に、難関国公立大志望者を集めてガイダンスを行う。難関大への意欲を持たせると共に、一緒に頑張る仲間をつくらせるのも目的だ
＊学校作成の資料をそのまま掲載

業評価の良さについて次のように述べる。

「生徒の興味を喚起するため、授業と関連する話をしたところ、逆に静まりかえってしまうことがあります。そうした時は『失敗したな』と思うのですが、生徒のアンケートを見ると、実は面白いと感じている生徒が多いことが分かったりします。一見、活気がないように思えた授業でも、生徒は評価してくれていたことを知り、勇気付けられたことがありました。生徒は授業評価に協力的で、用紙いっぱいに書いてくれることもあり、改善のためのヒントになると同時に、授業に対する私自身の意欲にもつながっているのです」

校外模試の報告会も、指導改善につながる取り組みの一つだ。すべての校外模試（6年間で21回）の結果を学年の教師が分析し、総括や反省を全学年の教師が職員会議で共有している。同校では、どの学年を受け持つかは年度ごとに決まるため、高2担当だったのが翌年には中3の授業を受け持つこともある。他学年の模試結果を知っておくことは重要なのだ。

「中学の教師が高校の状況を知っておけば、同じところでつまずかせないよう、先を見通して有効な対策がとれます。これは6年一貫教育の強みです。また、進路指導室ではいつでも詳細な模試結果を見ることが出来ます。そこで、生徒が解けなかった部分を確認し、授業できちんと教えられていたかどうかを振り返ることで、授業改善につなげている先生もいます」（赤沼先生）

模試データを全教師で共有することが、指導の見直しにつながり、「授業の質」を高めている。

授業公開はベテラン教師の技を体得する絶好のチャンス

同校では、授業力向上のため、授業はいつでも参観可能にしているが、より積極的な交流を促すために、年2回、各3週間の授業公開期間を設けている。特に若手教師にとって、公開授業は重要な研修の場になっている。社会科の佐川先生は次のように抱負を語る。

「自分が今までに教えたことのない学年の授業を受け持つ時には、最初の授業に臨む前に、必ずベテランの先生の授業を見るようにしました。私自身、早く後輩の先生方の指導が出来るよう、授業力を高めていきたいと思っています」

他教科・科目の授業も改善のヒントを与えてくれると、赤沼先生と西塚先生は話す。

「同じ教科の授業でも、私が担当する化学と、物理や生物の実験では、説明のタイミングや進め方が違うので参考になります。また、授業の中で、参観によって得た物理や生物の知識を関連付けながら説明することもあります。これにより、生徒は科目間のつながりに刺激を受け、授業への理解を更に深めることが出来るのです」（赤沼先生）

「私は数学担当ですが、理科の実験は生徒の動かし方や声掛け、机間巡視の仕方など参考になることがたくさんあります。数学は問題演習が中心なので、教師が解説をして終わりになりがちです。しかし、実験を参観してからは、生徒に作業をさせる際に緩急を意識した指導を行うようになりました」（西塚先生）

生徒の志望をかなえるには、教師一人ひとりが授業の質を高めることが必要――。すべての教師がその思いを共有している点が、同校の最大の強みだろう。若手教師も当然のようにその意識を受け入れる雰囲気がある。この意識の継承が同校の教師の指導力を支えている。今後の課題は、国公立大の個別試験対策の強化だ。

「中学入学時点の学力も上がり、国公立大志望者も増えています。今後、更に高い目標を目指す生徒が増えていくでしょう。しかし、東京大や一橋大など超難関大の論述試験に対応できる力を、これまでのような一斉指導で身に付けさせることは難しいと感じています。今までは教師が個別に添削指導を行ってきましたが、今後は学校全体のシステムとして組織化していかなければなりません。ここ1、2年のうちには体制を整えていきたいと考えています」（鈴木先生）

同校の改革は、次の段階に入ろうとしている。

今回のテーマに関連する過去の記事はBenesse教育研究開発センターのウェブサイトでご覧いただけます。
2009年4月号指導変革の軌跡「**東京都・私立実践女子学園中学校高校**」など
▶▶▶ ***http://benesse.jp/berd/*** → HOME ＞ 情報誌ライブラリ（高校向け）